

在宅取組型(中学校)

| | |
|----------|--|
| 学校名等 | 岐阜市立岩野田中学校 |
| 実施日時 | 冬季休業中の任意の日 |
| 会場 | 各家庭 |
| 参加人数 | 全校生徒(464名)とその保護者 |
| 学習課題(分野) | 話そう!語ろう!備えよう!わが家の防災 |
| 運営者の願い | 東海地震や南海地震などは、いつ起きてもおかしくない状態にあると言われる。濃尾地震以降、岐阜では130年以上大きな地震は発生しておらず、実際の大地震を体験した者が身近にはいない。東日本大震災時、普段の訓練が生かされ、難を逃れることができた者もいる。いざという時のための備えが重要だと考え、家族が揃うこの時期を話し合い確認するよい機会と考えた。 |

学習の内容

◎わが家の約束運動の類似活動として実施

<家族で話し合い決める内容

家族みんなで確認する内容>

- ・いざという時の家族内での役割分担
- ・危険な場所・物のチェック
- ・非常持ち出し品の準備
- ・わが家の避難場所
- ・家族が離れ離れになった時の連絡方法
- ・防災会議に取り組んだ感想

<補助資料として提供した内容>

- ・家具の配置や固定、身近に置くべき物
- ・備えておくべき食料や飲料とその量
- ・非常持ち出し袋の準備
- ・家族同士の安否確認方法
- ・避難場所や避難経路の確認

話そう!語ろう!備えよう!わが家の防災

家具の置き方、工夫していますか?

阪神・淡路大震災や新潟県中越地震などでは、多くの方が倒れてきた家具の下敷きになって亡くなったり、大けがをしました。大地震が発生したときには「家具は必ず倒れるもの」と考えて、転倒防止対策を講じておく必要があります。

- ・家具が転倒しないよう、家具は壁に固定しましょう
- ・寝室や子ども部屋には、できるだけ家具を置かないようにしましょう。置く場合も、なるべく背の低い家具にするとともに、倒れた時に出入り口をふさいだりしないよう、家具の向きや配置を工夫しましょう
- ・手の届くところに、懐中電灯やスリッパ、ホイッスルを備えておきましょう



食料・飲料などの備蓄、十分ですか?

電気やガス、水道などのライフラインが止まった場合に備えて、普段から飲料水や保存の効く食料などを備蓄しておきましょう。防災のために特別なものを用意するのではなく、できるだけ、普段の生活の中で利用されている食品等を備えるようにしましょう。

食料・飲料・生活必需品などの備蓄の例(人数分用意しましょう)

- ・飲料水 3日分(1人1日3リットルが目安)
- ・非常食 3日分の食料として、ご飯(アルファ米など)、ビスケット、板チョコ、乾パンなど
- ・トイレトーパー、ティッシュペーパー・マッチ、ろうそく・カセットコンロ など

※大規模災害発生時には、「1週間分」の備蓄が望ましいとされています。



<わが家の防災の取組を終え>

元日に、実際に地震が起き、家族みんなで改めてよく話し合いました。防災リュックの中身を確認し、足りないものは買い物に行き、付け足しました。また、ピアノをしっかりと固定しました。地震はいつ起きるかかわからないと言いつつ、どこか自分たちとは遠い存在に思っていたところがありましたが、今回の取組でしっかりと点検と確認ができてよかったと思います。



話し合いがスムーズに進むように、補助資料を裏面に印刷したチェック表と決定事項を記入できるカードを作成し、全家庭に配付している。



生徒貸出用タブレットの「連絡帳」を活用し、取組の目的やねらいについて、各保護者に周知し、協力を依頼している。



活動後、PTAで実践カードを回収し、どのような話し合いがなされたかを確認し、保護者に報告している。

